

2018年8月28日

経済レポート

グラフで見る東海経済(2018年8月)

調査部 主任研究員 塚田裕昭

【今月の景気判断】

東海経済は回復基調で推移している。

項目	現状(8月)	前月
1. 景気全般	回復基調	-
2. 生産	増加基調	-
3. 輸出入	輸出は増加基調、輸入は横ばい	-
4. 設備投資	増加している	-
5. 雇用	改善している	-
6. 賃金	横ばい圏で推移している	持ち直しが一服
7. 個人消費	横ばい圏で推移している	-
8. 住宅投資	横ばい圏で推移している	-
9. 公共投資	増加している	-

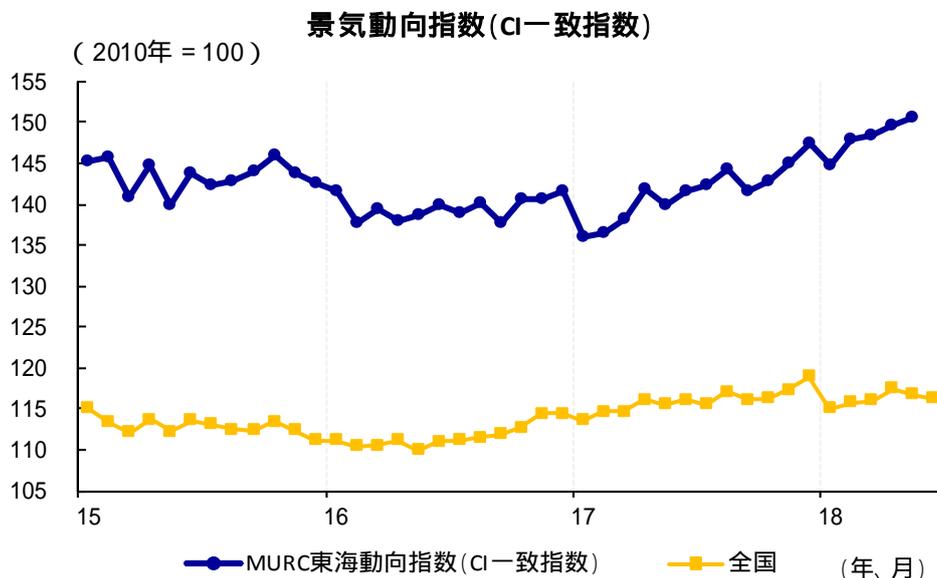
(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目
前月のコメントが現状と同じ場合は - と表記

【今月のポイント】

- ・生産は高水準横ばい。6月の電子部品デバイスは集積回路を中心に伸び、前月比+10.5%増と好調。工作機械受注は高水準維持ながら、中国からの受注が減速。
- ・5月の名目賃金は、前年比+0.2%とプラス圏に。
- ・百貨店売上げは、6月にバーゲンの前倒し等で増加した後、7月は豪雨、猛暑の影響等により前年比で減少。6月のスーパー売上げは飲食料品が伸び前年比でプラスを維持。

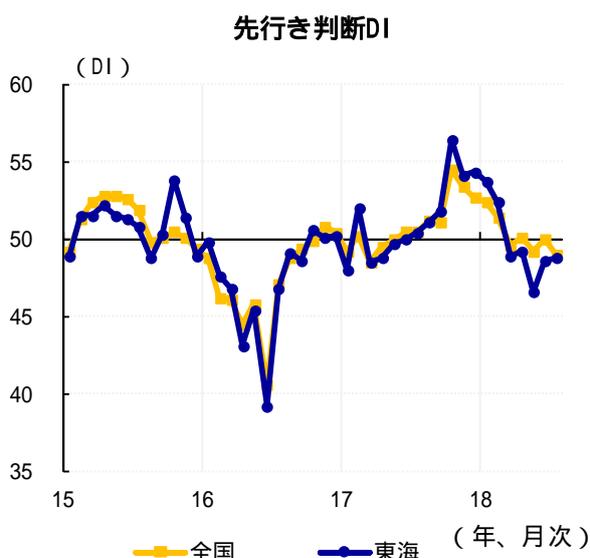
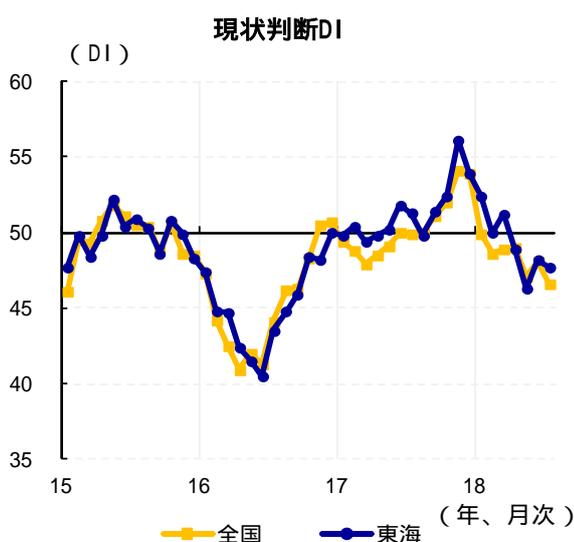
1. 景気全般 ~ 回復基調 (先行き: 回復基調)

5月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、前月差+1.0の150.5と4ヶ月連続で上昇した。



(出所) 内閣府「景気動向指数」、各県「景気動向指数」

7月の東海4県の**景気ウォッチャー調査**は、足元の景況感を示す**現状判断DI**(季節調整値)が前月差-0.5ポイントの47.7と2ヶ月ぶりに低下した。東海の景気マインドは弱い動きが続いている。**先行き判断DI**(同)は同+0.2ポイントの48.8と2ヶ月連続で上昇したが、引き続き横ばいを示す50を下回っている。

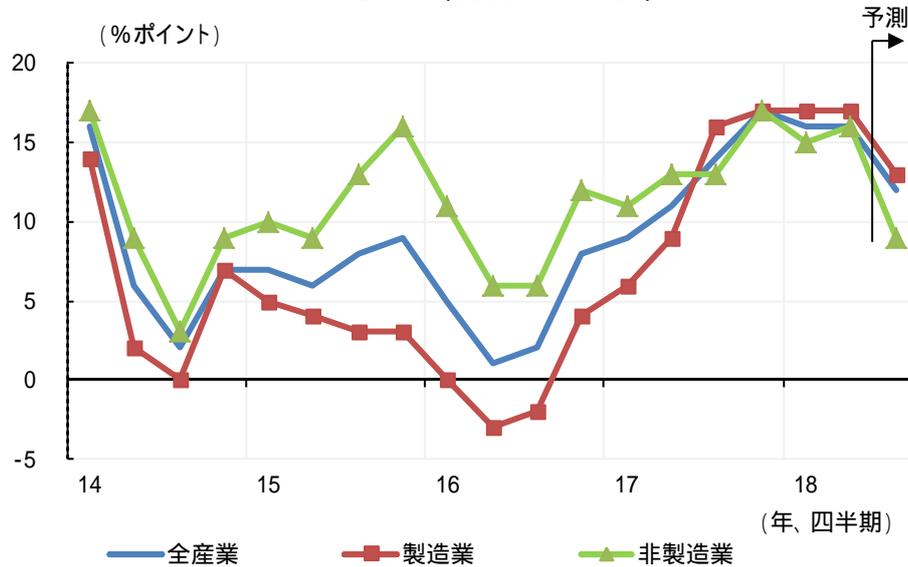


(注) DIは季節調整値
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

四半期データのため、本頁は前号から変更なし

日銀短観6月調査によると、東海3県の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模](+16)、製造業[全規模](+17)がそれぞれ横ばい、非製造業[全規模]では+16と1ポイント上昇した。先行きについては、全産業、製造業、非製造業ともに悪化が見込まれている。

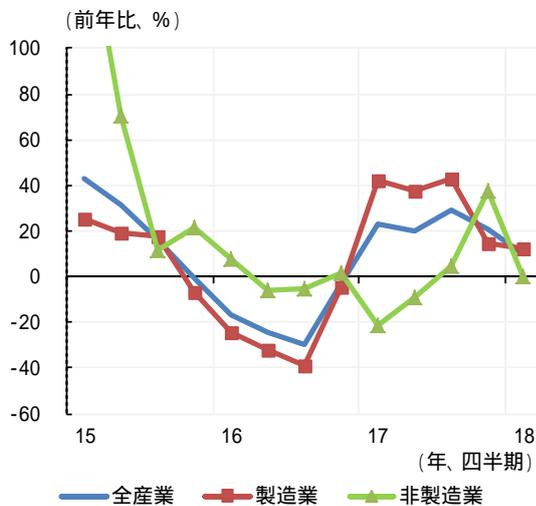
業況判断DI (名古屋・全規模)



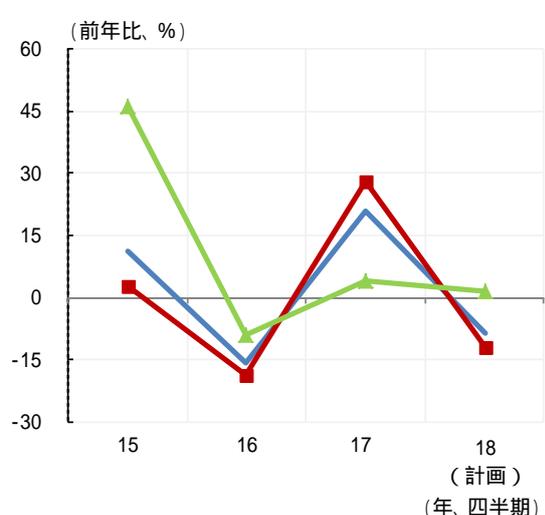
(出所) 日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」(短観)

法人企業統計調査によると、2018年1~3月期の東海4県の経常利益(全産業)は前年同期比+10.3%と5四半期連続で増加した。製造業が同+12.7%と5四半期連続、非製造業は同+0.4%と三四半期連続で増加した。日銀短観6月調査では、東海企業の17年度の経常利益は全産業で同+21.1%、製造業で同+28.1%、非製造業で同+3.9%と前回3月調査から上方修正された。18年度は全産業が同-8.7%、製造業が同-12.1%、非製造業が同+1.5%と見込まれている。

東海の大企業の経常利益(法人企業統計調査)

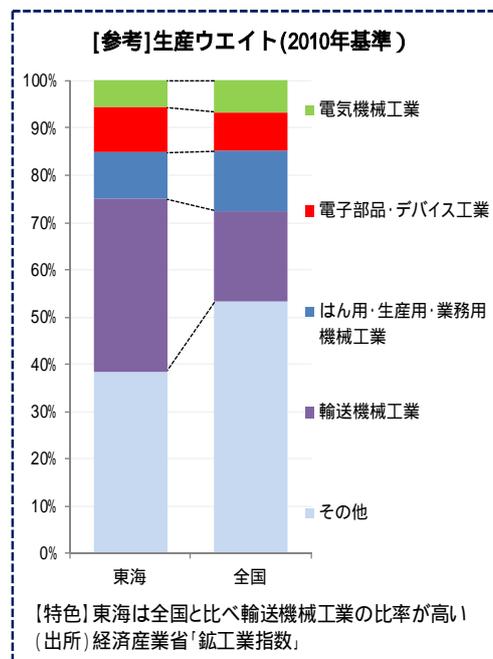
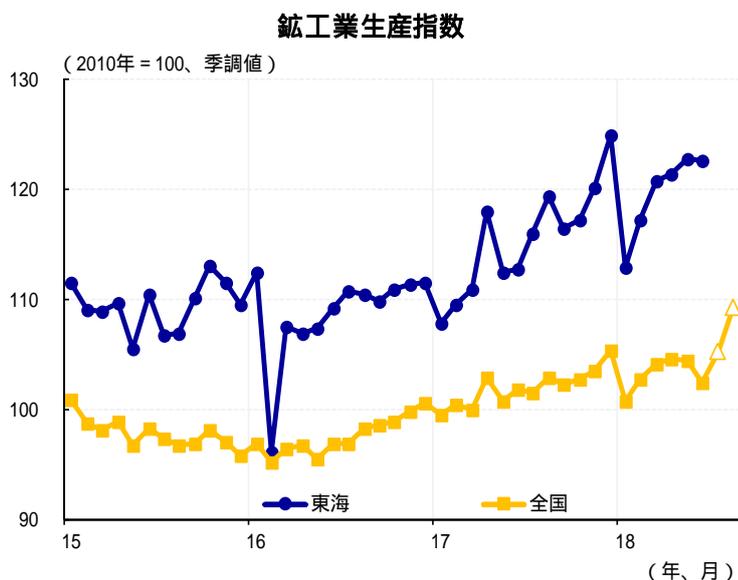

 (注) 資本金10億円以上の法人(除く金融・保険)
 (出所) 東海財務局「法人企業統計調査」

東海の企業の経常利益計画(日銀短観)


 (注) 東海3県=愛知、岐阜、三重。
 (出所) 日銀、同名古屋支店「企業短期経済観測調査」

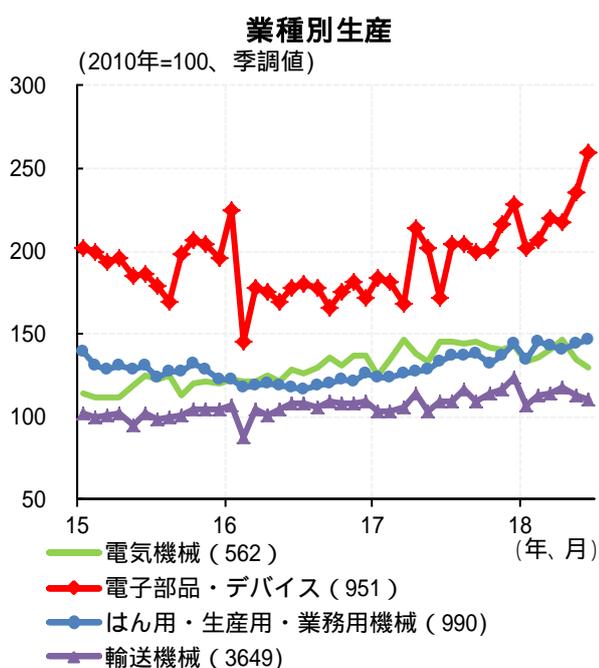
2. 生産 ~ 増加基調 (先行き: 増加基調)

6月の東海3県の**鉱工業生産**は、前月比 - 0.2%と5ヶ月ぶりに低下した。電子部品・デバイス、はん用・生産用・業務用機械などは伸びを高めたものの、輸送機械やその他業種がマイナスに寄与した。



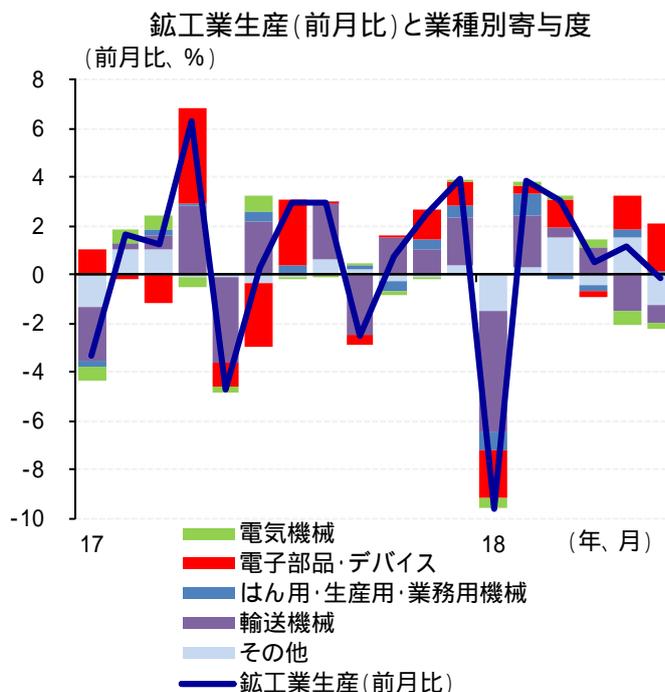
(注) 生産(全国)の「」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。

(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」
 経済産業省「鉱工業指数」



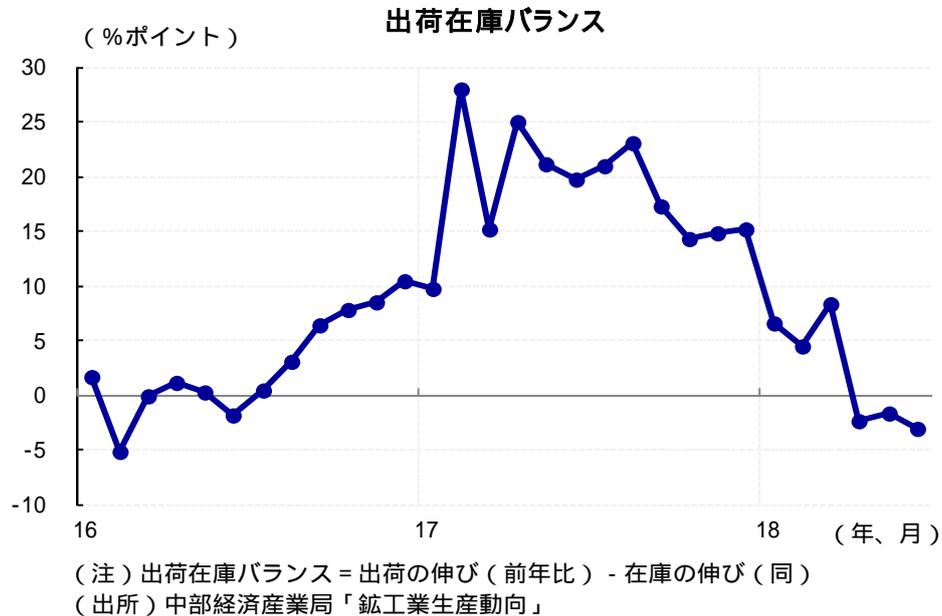
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業 = 10,000)

(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」

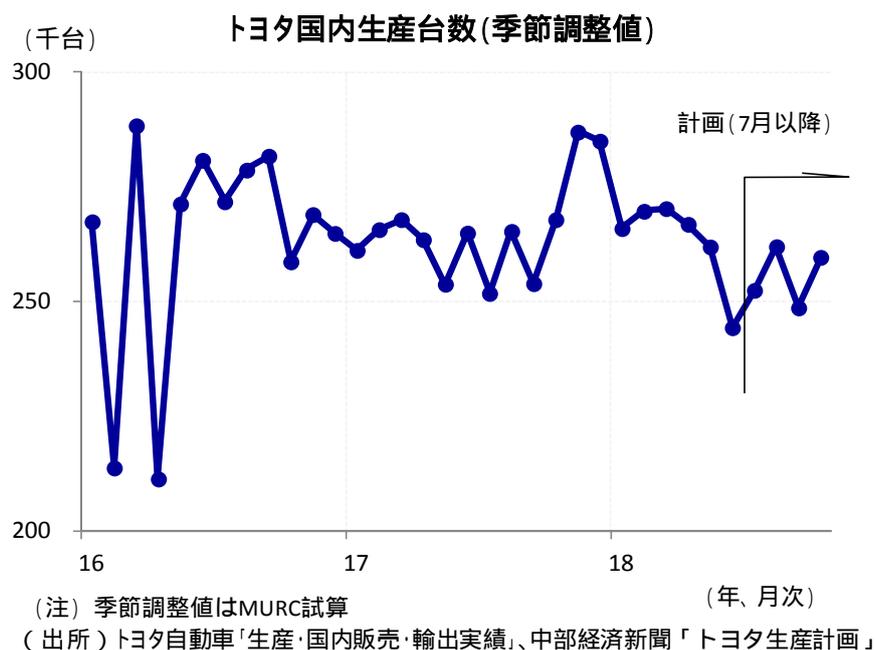


(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」

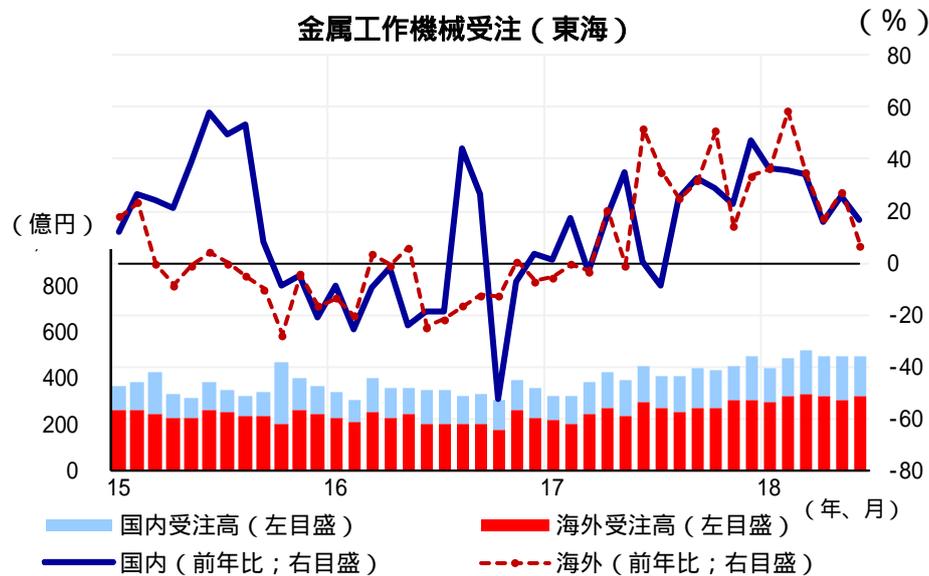
出荷の伸びから在庫の伸びを引いた**出荷在庫バランス**は、出荷の増加ペースは横ばいとなる一方、在庫の伸びが増加したため、このところマイナスでの推移となっている。



中部経済新聞社報道の**トヨタ自動車国内生産計画**によると、18年7~10月の国内日当たり生産台数は1万2,000台弱~1万3000台半ばで推移する見込みである。季節調整済みの数字(MURC試算)で見ると、総じて横ばいの推移が見込まれる。



6月の東海の**金属工作機械受注**は、前年比+10.1%(うち国内受注:前年比+16.4%、海外受注:同+6.9%)と増加が続いているものの、伸びは鈍化してきている。地域別では、米国は17ヶ月ぶり、アジア(含む中国)は2ヶ月ぶりに減少した。中国は18ヶ月連続での増加が続いているが、伸びは鈍化した。

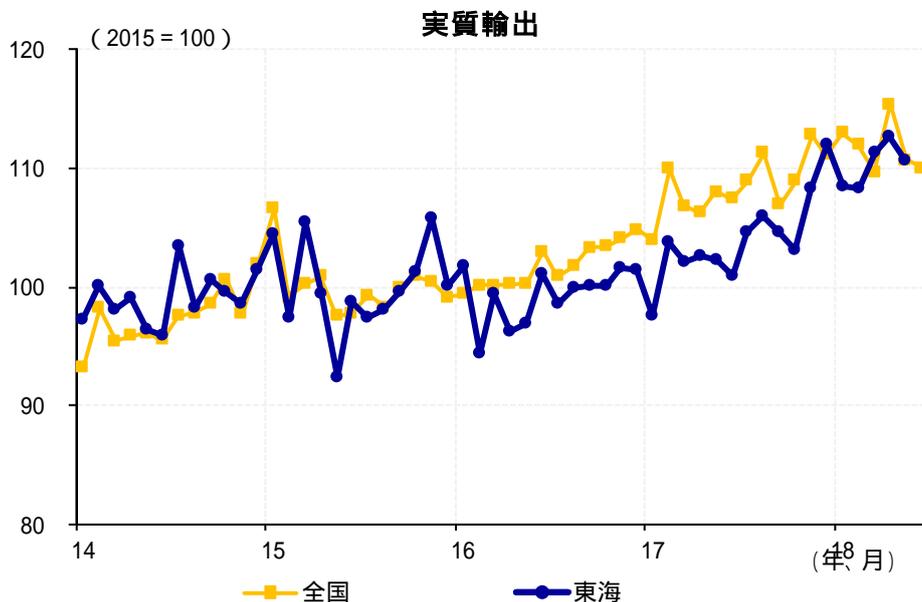


(注) 東海は、中部経済産業局管内の主要8社
 (出所) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

3. 輸出入 ~ 輸出は増加基調、輸入は横ばい (先行き：輸出は増加基調、輸入は横ばい)

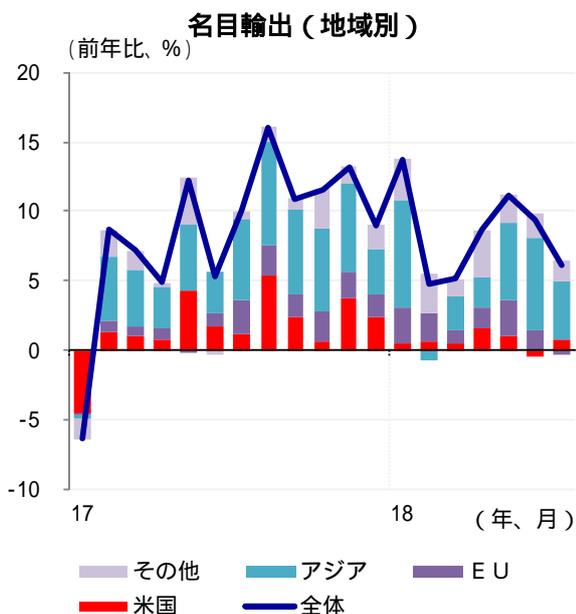
5月の**実質輸出**(季調済)は前月比 - 1.8%と3ヶ月ぶりに減少したが、均して見ると増加基調で推移している。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)

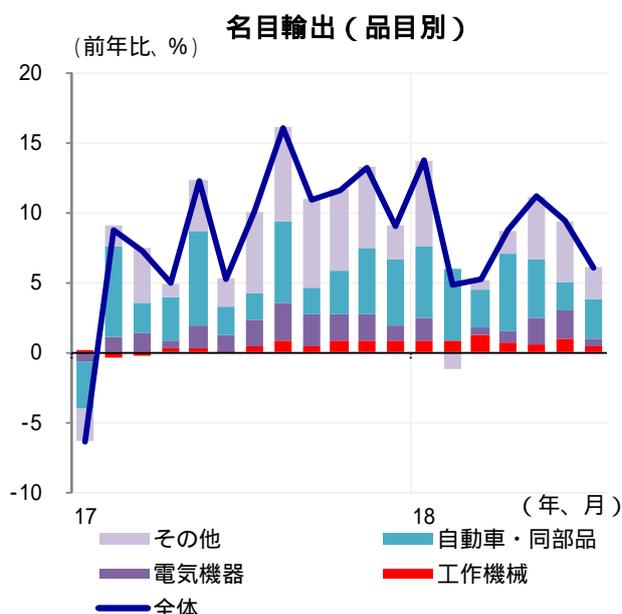


(出所)日本銀行名古屋支店「実質輸出入」

7月の名古屋税関管内の**名目輸出額**は前年比 + 6.1%と18ヶ月連続で増加した。地域別では、EU向けが同 - 2.3%と14ヶ月ぶりに減少したが、米国向けが同 + 2.6%と2ヶ月ぶりに増加したほか、アジア向けが同 + 11.1%と5ヶ月連続で増加した。品目別では、自動車(同 + 8.4%)、電気機器類(同 + 4.7%) 工作機械(同 + 14.6%)などが増加した。



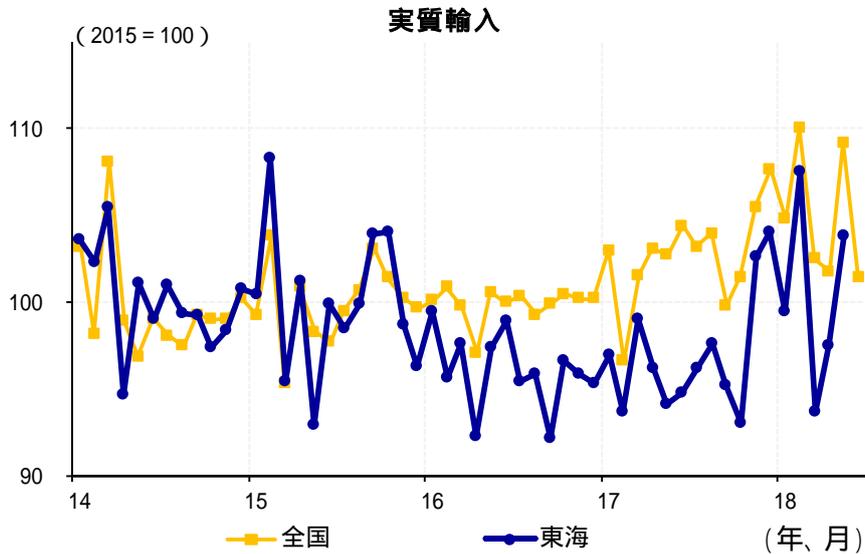
(出所)財務省「貿易統計」



(出所)財務省「貿易統計」

5月の**実質輸入**(季調済)は、前月比+6.5%と2ヶ月連続で増加した。東海の輸入は均してみると横ばいとなっている。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)



4. 設備投資 ~ 増加している (先行き: 増加)

四半期データのため、本頁は前号から変更なし

2018年1~3月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+2.3%と4四半期ぶりに増加した。非製造業は同-10.5%と2四半期ぶりに減少したが、製造業が同+15.8%と2四半期ぶりに増加した。季節調整値(MURC試算)の動きを見ると、緩やかな増加基調となっている。

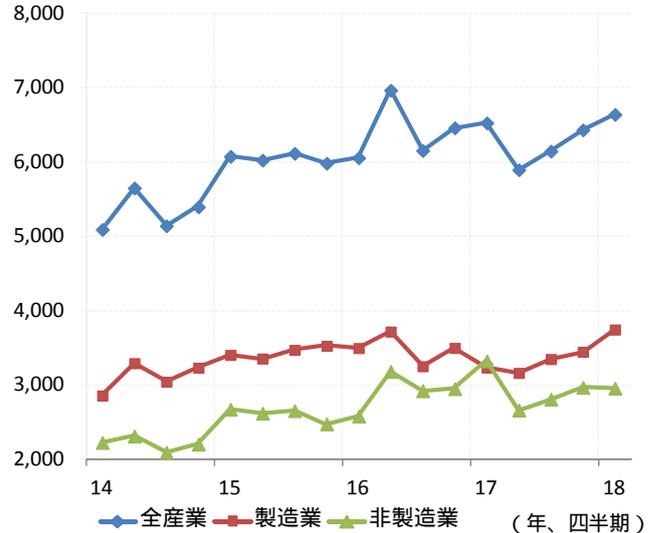
(コメント・グラフともに前号から変更なし)

設備投資の前年比伸び率(全産業、%)

	東海	全国
17年 1-3月	8.4	4.5
4-6月	-15.1	1.5
7-9月	-0.7	4.2
10-12月	-0.6	4.3
18年 1-3月	2.3	2.8

(出所)財務省「法人企業統計調査」

(億円) 設備投資(ソフトウェアを含む、季節調整値)



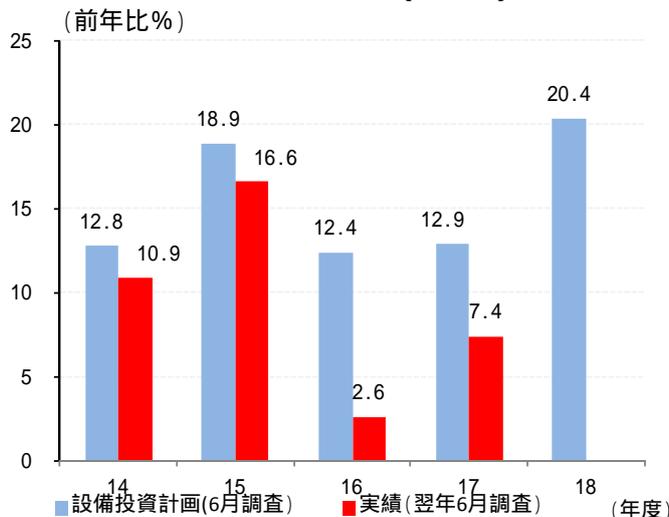
(注)季調はMURC

(出所)財務省「法人企業統計調査」

日銀短観6月調査によると、東海3県の17年度の設備投資は全産業で前年比+4.6%(3月調査同9.9%)と増加した。内訳をみると、非製造業は同+1.5%(同+9.0%)、製造業は同+7.4%(同+10.8%)となった。18年度については、全産業で同+18.0%、製造業で同+20.4%、非製造業で同+15.2%と大幅な増加が計画されている。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)

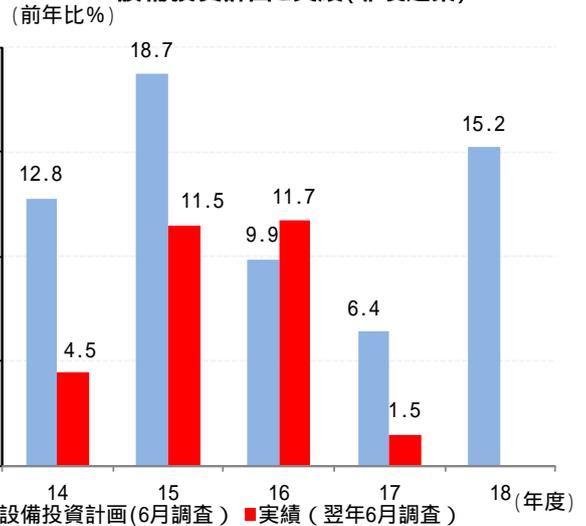
設備投資計画と実績(製造業)



(注)設備投資は含む土地投資額

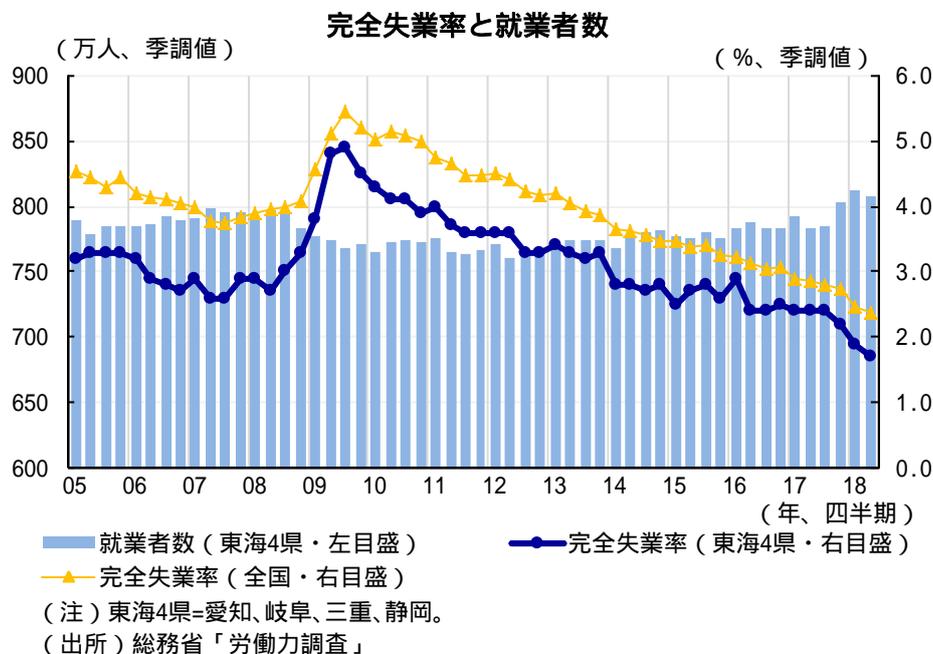
(出所)日本銀行名古屋支店「短観」

設備投資計画と実績(非製造業)

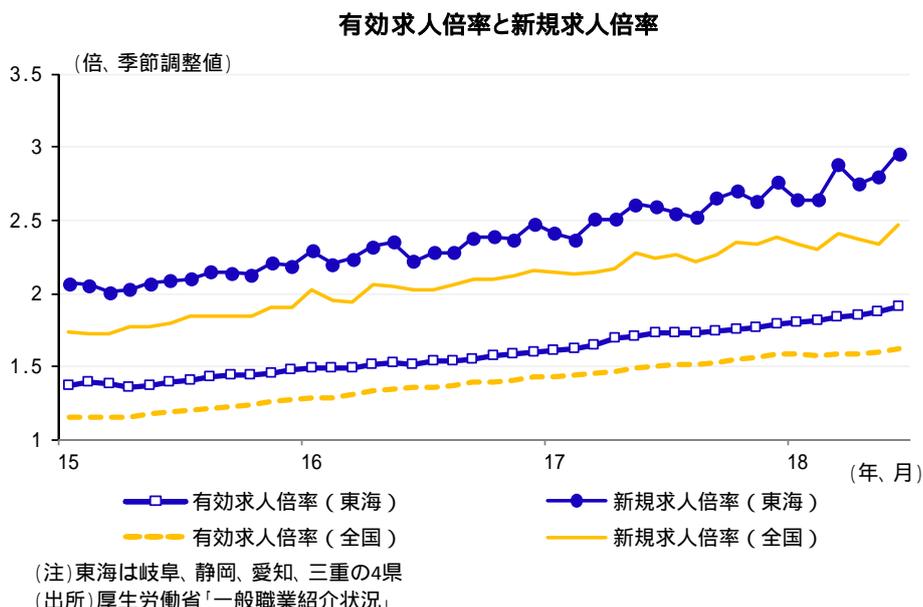


5. 雇用 ~ 改善している (先行き: 改善)

2018年4~6月期の東海4県の**完全失業率**は前期差 - 0.2%ポイントの1.7%と低下、全国(2.4%)水準を下回り、地域別にみても最も低い水準で推移している。同時期の**就業者数**は前期差 - 6万人、完全失業者は同横ばいとなった。

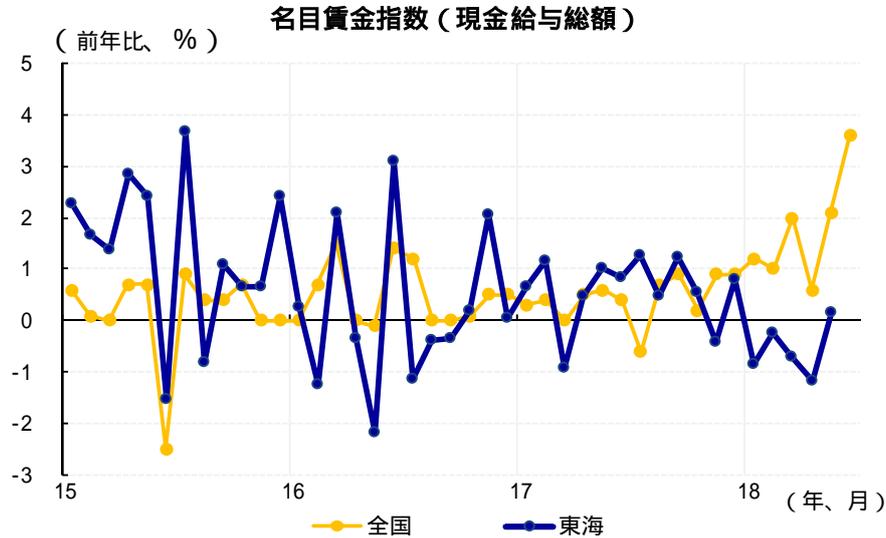


6月の東海4県の**有効求人倍率**(有効求人数/有効求職者数)は、1.91倍と上昇が続いている。有効求人数(前月比+1.7%)が5ヶ月連続で増加した一方、有効求職者数(同-0.3%)は2ヶ月ぶりに低下した。有効求人倍率に先行する**新規求人倍率**は2.96倍と2ヶ月連続で上昇、新規求人数は前月比+2.9%と増加し、新規求職申込件数は同-2.9%と減少した。



6. 賃金 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 持ち直し)

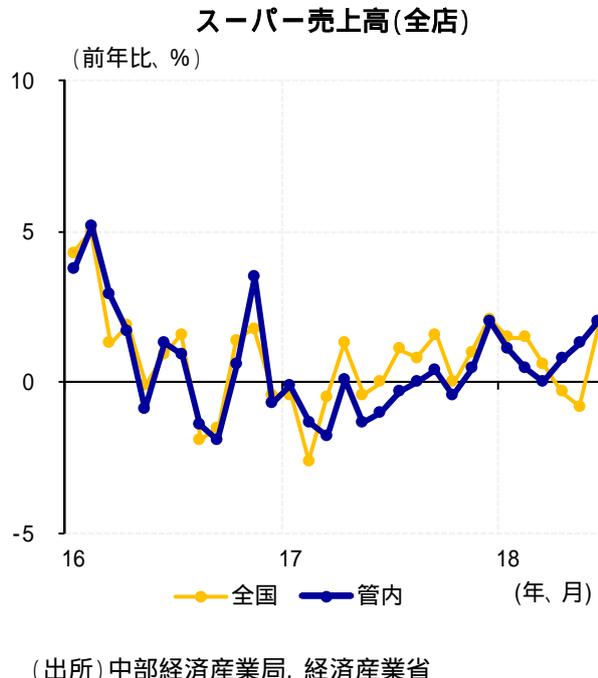
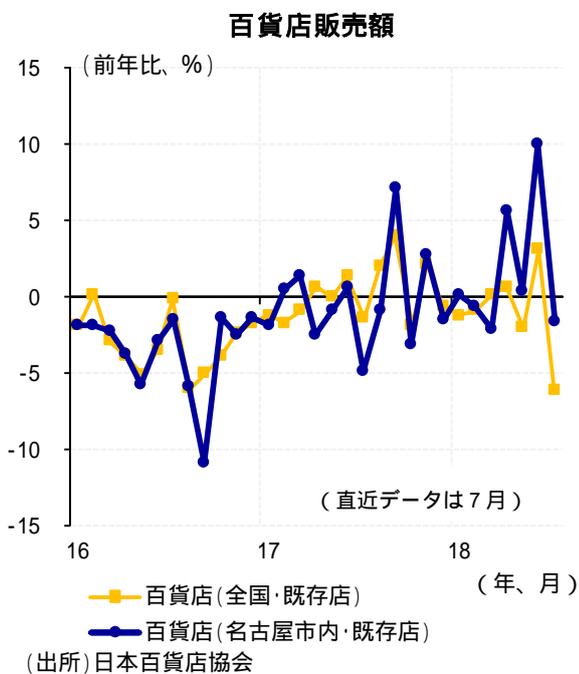
東海3県の5月の名目賃金指数(現金給与総額)は前年比+0.2%と、5ヶ月ぶりに小幅増加した。常用労働者数の約7割を占める愛知県(同-0.1%)の減少幅が縮小した。東海3県の賃金はこのところ横ばい圏で推移している。



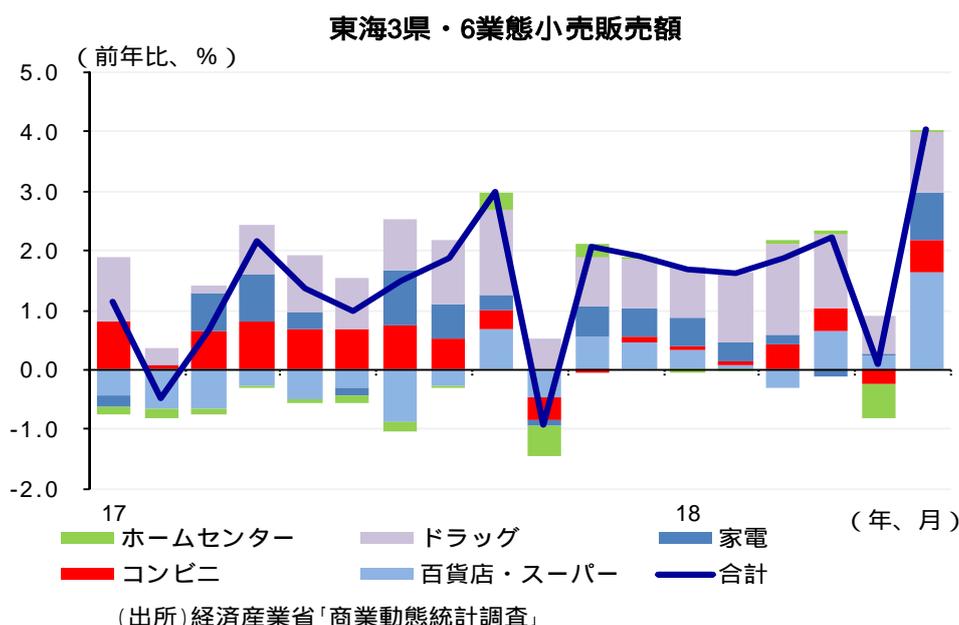
(注) 東海3県(愛知、岐阜、三重)の指数はMURC試算。常用労働者数で按分し合成。
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

7. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 緩やかに持ち直し)

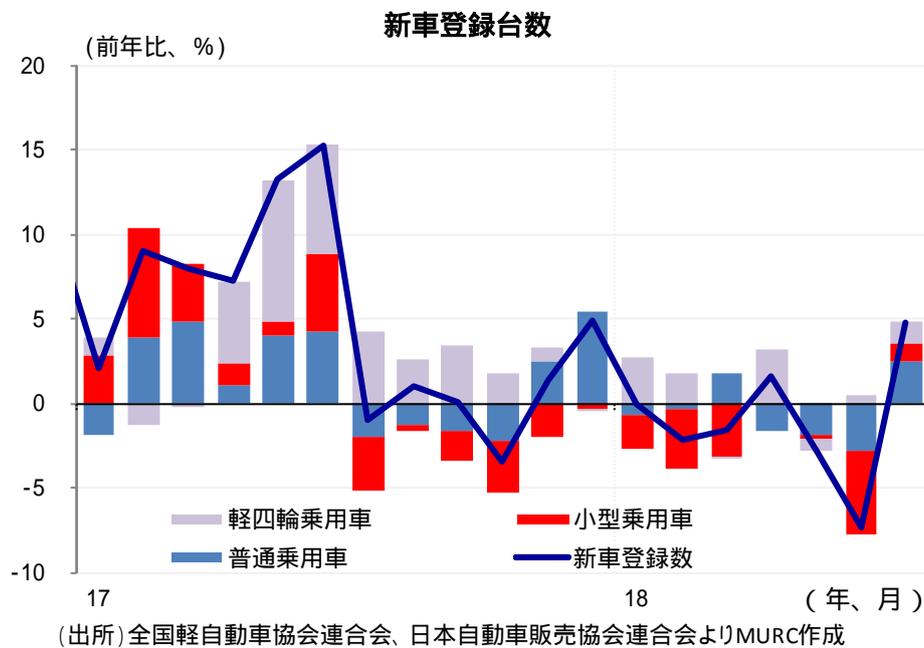
7月の名古屋市内の百貨店販売額(既存店)は前年比 - 1.6%と4ヶ月ぶりに減少した。猛暑や豪雨の影響で客足が鈍ったとみられる。6月の中部5県のスーパー売上高(全店)は同2.0%と8ヶ月連続で増加した。衣料品は減少したが、飲食料品、その他が増加した。



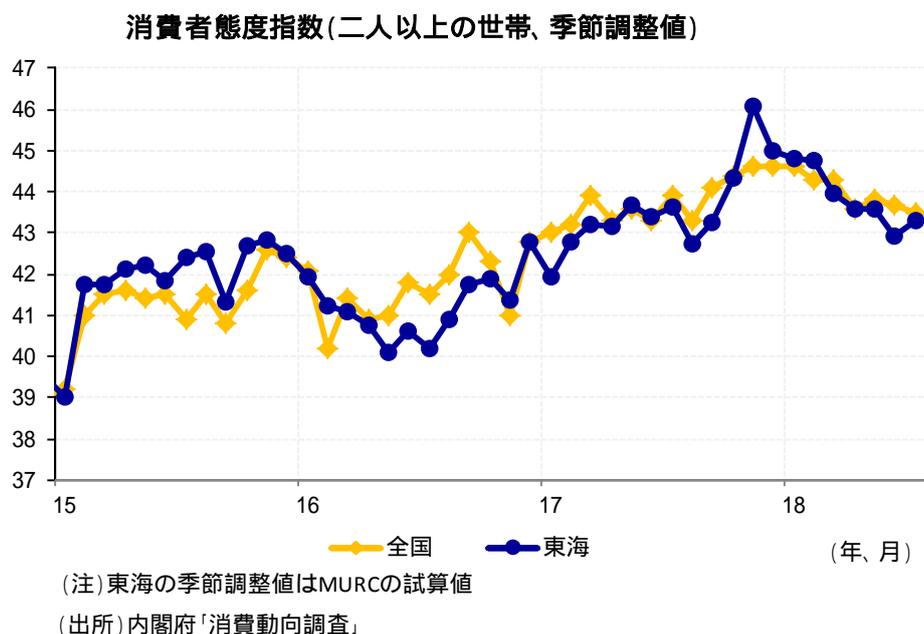
6月の商業動態統計調査 6業態の販売額は、百貨店に加え、家電、コンビニも好調で、前年比 + 4.0%と伸びを高めた。



7月の東海3県の**新車登録台数(乗用車、含む軽)**は、前年比+4.8%と3ヶ月ぶりに増加した。内訳を見ると、軽自動車(同+4.0%)が2ヶ月連続で増加したことに加え、普通乗用車(同+6.8%)が4ヶ月ぶり、小型乗用車(同+3.3%)は3ヶ月ぶりに増加した。

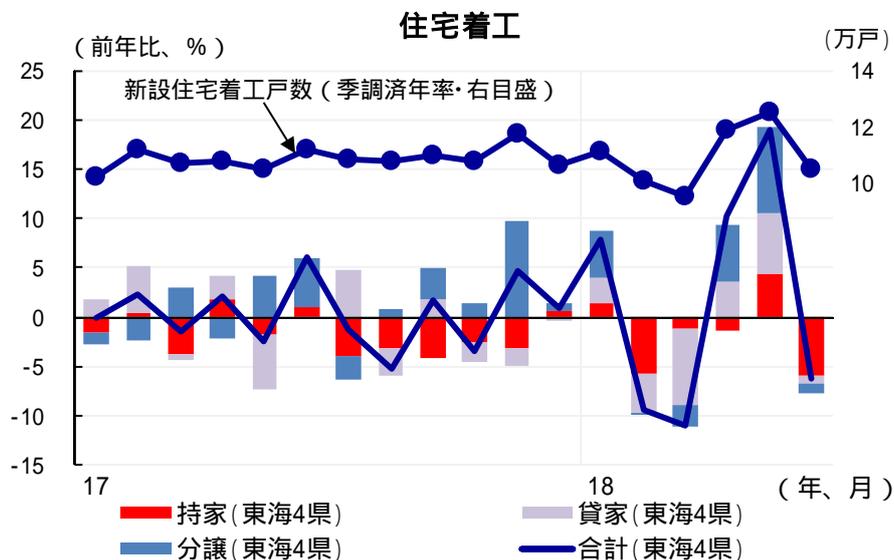


消費者マインドを表す**消費者態度指数**(季節調整値：MURC試算値)は、昨年11月をピークに弱い動きが続いている。



8. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 弱含み)

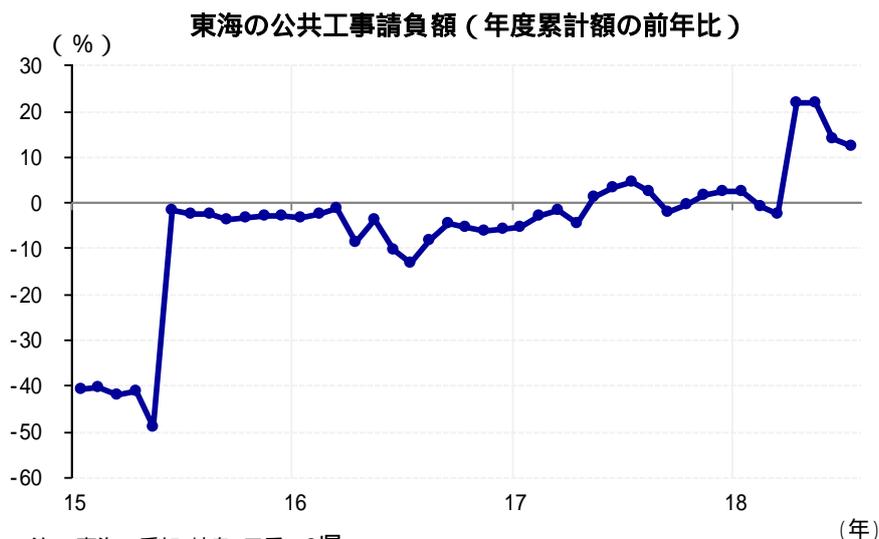
18年6月の東海4県の住宅着工戸数は季調済年率で(MURCI試算)10.5万戸)と3ヶ月ぶりに減少したが、均して見ると横ばい圏で推移している。原数値の前年比では-6.2%の9,308戸と3ヶ月ぶりに減少した。分譲、貸家が3ヶ月ぶり、持家が2ヶ月ぶりで減少に転じた。



(注) 東海4県 = 愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社による。
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

9. 公共投資 ~ 増加している (先行き: 横ばい圏)

東海3県の公共工事請負額(年度累計)(4-7月)は前年比+12.5%と増加している。東海の公共投資は新年度入り後、増加している。7月単月では、同+5.6%の886億円と2ヶ月ぶりに前年を上回った。



(注) 東海 = 愛知、岐阜、三重の3県。
(出所) 日本銀行名古屋支店「東海3県の金融経済動向」、保証事業者協会、北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

1.0 . 貸出 ~ 貸出は増加

18年6月の東海3県貸出残高(国内銀行ベース)は、資金需要が持ち直している中、同+2.0%と64ヶ月連続で増加した。



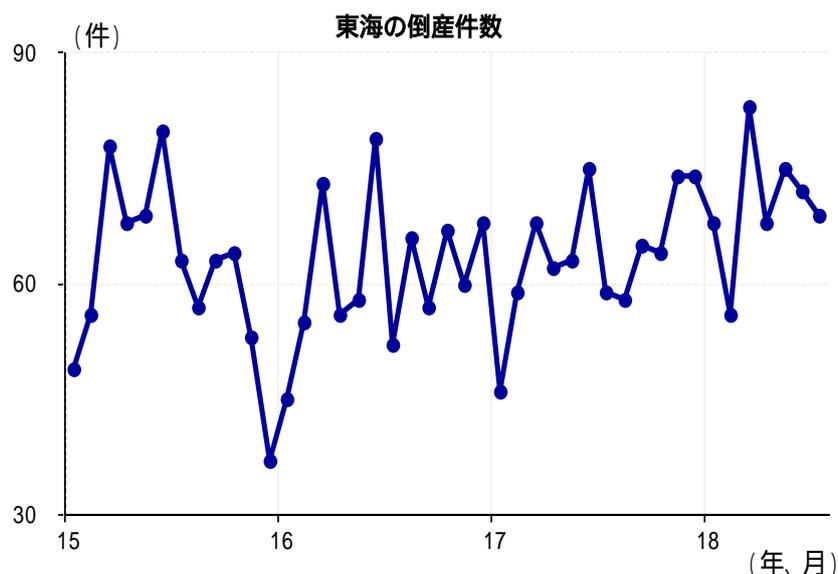
(出所) 日本銀行



(出所) 日本銀行

1.1 . 倒産 ~ 倒産件数は増加

7月の東海3県の倒産件数は前年比+16.9%の69件(前年同月59件)と2ヶ月ぶりに増加した。また、倒産企業の負債総額は同+2.1%の127億円と3ヶ月連続で前年を上回った。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。